

2011年8月1日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山武彦
担当ワーキンググループ主査 二宮浩輔

エルサルバドル国 「幹線道路整備事業準備調査」
(有償資金協力)
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

- ワーキンググループ会合
- 日時：2011年6月24日(金) 15:00~18:00
- 場所：JICA 本部 (会議室：1階 112 会議室)
- ワーキンググループ委員：二宮委員、石田委員、佐藤委員、田中委員、早瀬委員、
松下委員、柳委員
- 議題：エルサルバドル国 幹線道路整備事業に係るスコーピング案に対する助言案作成
- 配布資料
 - 1) スコーピング案
 - 2) 「サンミゲル圏地域開発計画報告書」概要
 - 3) 現況写真
 - 4) 参考資料 1-5 (サンミゲル圏経済活動図、Traffic Volume Capacity Ratio 等)
- 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010年4月)

全体会合 (第15回委員会)

- 日時：2011年8月1日(月) 14:30~17:30
- 場所：JICA 本部 (会議室：2階 229 会議室)

上記の会合において、助言を確定した。

助言

交通需要

1. 新規のバイパス道路整備計画に伴う自動車交通量の変化について、将来予測データを把握し、明記すること。
2. 上記の予測に基づき、道路整備による新たな交通量の発生も勘案した交通需要の管理計画が長期的な視点で示されているか確認するとともに、そのような計画が道路整備の前提であることを確認すること。
3. 道路整備と交通需要量増加による交通量の増加が見込まれ、結果的には交通総量は増大し、地球温暖化、大気汚染への影響も悪化する。そのようなことが生じないような交通管理対策を検討し、導入を促すこと。

ステークホルダー協議

4. 第二回以降のステークホルダー協議では、地域内の利害対立の可能性を考慮し、幅広いステークホルダーから意見を聴取すること。
5. 適切な交通需要管理をとまなわない道路整備は、新たな交通の増大および渋滞状況の拡大をもたらす可能性が大きいことを、ステークホルダーに正しく情報提供すること。
6. 本事業に伴い、バイパス道路やバイパス道路と一般道路の接点部分での商業活動が増加することが予想され、サンミゲル市内の商業セクターへの経済的な負の影響も予想される。協議プロセス（特にサンミゲル商工会議所）において、サンミゲル市内の商業セクターへの経済的影響や経済的便益の分配についても十分な協議がなされること。

スコーピング・EIA

7. 整備案ルート近辺における大気質、騒音等の主要な環境項目に関して、現況の状態を把握すること。

8. 「土地利用や地域資源利用」の項で、供用後は「ほとんど影響しない」D評価であるが、本道路計画により、交通利便性の向上や周辺土地利用の機能向上、排水施設の整備等が見込まれることから、評価を再検討すること。
9. 「動植物」の項で、代替案1と2のいずれも、道路建設に伴う樹木伐採の発生が見込まれており、その旨の内容と評価を明記すること。
10. 「地球温暖化」および「大気汚染」の項で、長期的には地域全体で自動車走行量の増加が見込まれること、バイパス道路整備周辺では自動車排気ガス増大による大気汚染が生じることを考慮し、再検討すること。
11. 「騒音振動」の項で、バイパス道路整備後の交通量の発生程度によって、大きな影響（A-）が生じる可能性があることに留意すること。
12. EIA 調査の項目には貧困層への影響も含めること。

計画・対策

13. 当該国においては「動植物の研究が乏しい」、「各地域における貴重種の分布に関する調査は乏しい」、と指摘されているため、「エ」国で実施されている他案件のEIA等既存情報を利用し、本調査の生態系調査に役立てること。
14. バイパス案は洪水常襲地域の河川を横断するため、洪水、ハリケーン、地震を考慮した防災型の設計とすること。また、雨水対策として排水施設（側溝、横断排水溝）の設置を検討すること。
15. 小作農民、土地無し農民が存在する可能性を考慮し、土地所有の状況を十分確認すること。
16. 牧畜等における水利用（表層水や地下水脈の分断）や飲料水に与える影響を考慮した計画とすること。
17. 道路開通に伴う、地域分断と地域住民の移動にもたらす影響（通勤や通学、水利用、土地利用、コミュニティの場形成）について明確にすること。

18. 社会的弱者や貧困層に対する対策（交通安全対策、ステークホルダー協議等での適切な措置、苦情を組み入れる仕組み、経済的便益の分配）を考慮した計画とすること。
19. 本事業にて検討されているパーキング/サービスエリア等の施設から排出される排水、廃棄物が、当該国の規定・基準に従って適切に処分・処理されるよう確認すること。
20. 道路沿道または中央部分における植栽・緑化を検討すること。

その他

21. 代替案比較においては、環境面・社会面について評価項目に従って評価を行い、比較表等を作成し、差が大きい項目を特に明示するなど、優位性があると判断された根拠を判りやすく示すこと。
22. エルサルバドル国及び中米太平洋岸での最大規模の国際港であり、国道1号線の延長線上にあるラ・ウニオン港は海運と陸運の物流拠点であるとの説明があるが、そのことを具体的に示す説明を追記すること。

以上